



都立南大沢学園通信

～情熱・誠実・実践～

東京都立南大沢学園

校長 井上 美保

令和8年7月1日発行

7月号

変化する時代に大切にしたいこと

校長 井上 美保

今年度がスタートし、3か月が過ぎようとしています。この時期、本校には、皆さんの後輩となる多くの中学生が見学を訪れています。その際、私は必ず南大沢学園の魅力について話をします。

○生徒の挨拶が素晴らしいこと。

○校舎内を生徒がきれいに清掃していること。

○こうしたことを、生徒が主体的に実践していること。

これらは一見当たり前のことに見えるかもしれませんが、社会の中で暮らしていく上で最も信頼される力は、こうした日常の積み重ねから生まれるものです。皆さん一人一人の姿が、本校の価値そのものを形づくっているのです。

さて、コースの授業では、地域貢献活動に取り組んでいます。小学校や保育園、高齢者施設、公共施設、企業など、地域社会のさまざまな場が、皆さんの学びのフィールドとなっています。学校で身に付けた基礎的・基本的な力は、校外でどのように発揮するかによって、その意味や価値が問われます。だからこそ、皆さんには、この機会を当然のものとするのではなく、社会に出るための自覚と、周囲への感謝の気持ちをもって活動に臨んでほしいと思います。

このように、地域との関りが広がる一方で、社会そのものも急激な変化を遂げています。生成 AI や ICT の活用は、もはや特別なものではなく、企業での業務や働き方そのものが大きく変わりつつあります。本校においても、企業の経営者の方々との意見交換を重ねながら、これからの職種や求められる力について情報共有をしているところです。

これからの時代は、変化の速度も規模も、これまでとは比較にならないレベルで進んでいきます。学校教育においても、情報活用能力の育成は、これまで以上に重視されていくでしょう。しかし、デジタルの力だけで人が成長できるわけではありません。デジタル技術によって学びが広がる一方で、人との関わる中でこそ生まれる力もたくさんあります。

南大沢学園は、時代の変化に柔軟に対応しながら、変えてはならない本質も大切に守り続けていきます。そして、やがて到来する新たな社会の中で、主体的に生きていける生徒たちを全力で育てていきます。

未来につながる学び ～自己理解から進路選択へ～

主幹教諭 林 功司

本校では、生徒一人一人が将来、自分らしく社会の中で生活していけるよう、「就労準備性」の育成を大切にした教育を行っています。就労準備性とは、特別な能力ではなく、あいさつや時間を守ること、周囲の人と協力することなど、働くうえで基盤となる力のことです。これらは一朝一夕で身に付くものではなく、日々の学校生活の中での経験を通して、少しずつ育まれていきます。本校では、このような日常の積み重ねを大切にしながら、丁寧な指導を行っています。

こうした力を支える土台となるのが「自己理解」です。自分の得意なことや苦手なこと、どのような環境で力を発揮しやすいかを知ることが、将来の進路を考えるうえでとても重要です。本校ではチェックシート等を活用し、振り返りの機会を設けることで、自分自身を客観的に見つめる力を育てています。

日々の学びの積み重ねにより、生徒は自ら判断して行動できるようになり、進路について主体的に考える力を身に付けていきます。そして、多様な職種の中から自分に合った進路を選択し、目標に向かって努力する姿勢を育んでいます。安定した生活習慣や基本的なコミュニケーション力は職場での信頼につながり、安心して長く働き続けること、すなわち職場での定着へとつながります。

今後も本校では、生徒一人一人の個性や可能性を大切にしながら、社会への円滑な移行を支える指導を進めてまいります。保護者の皆様と連携し、お子様の成長を共に支えていければと考えております。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。